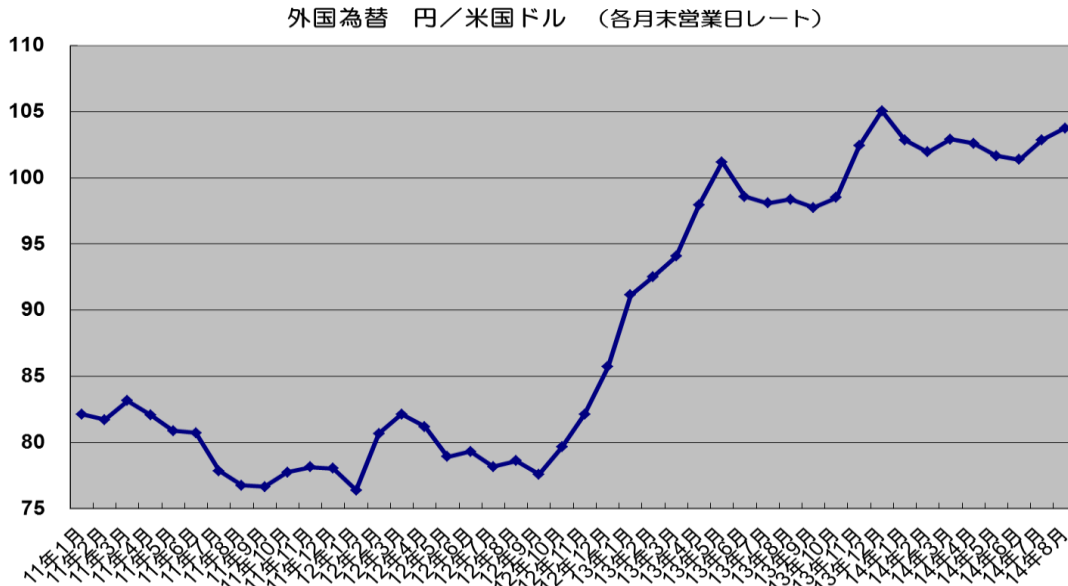


輸入粗飼料の情勢

全酪連購買部
購買推進課

外国為替（対米国ドル）の影響



北米産乾牧草の11年産以降の産地価格は、アルファルファをはじめとしたいずれの草種も良品不足や、UAE（アラブ首長国連邦）や中国からの強い引合い等の要因により、同時期に穀物や燃料も高騰した08年産と変わらないか、それよりも高い水準で推移しています。一方で、外国為替は長らく円高・米国ドル安水準で推移し、10年9月から85円／ドルを超える円高がおおよそ2年以上も続きました。この間、強い円高に支えられていたため、乾牧草の産地価格が、米国ドル建てでは高く推移しているにもかかわらず、円貨にすると数年前と比べてあまり高くない水準で推移していました。しかしながら、12年11月から徐々に円安に動き始め、13年11月以降は2桁台に戻ることもなく推移し、14年8月末は103.7円／ドルまで円安が進んでいます。昨日9/9からは106円／ドル台を記録し、5年11ヶ月ぶりの円安水準となっています。

産地価格がドル建てで高いがゆえに、今後も少しでも円安が進むと円貨では大きな“値上げ”となります。外国為替（対米国ドル）の影響について、大半のサプライヤーは日本側の現状を、もちろん理解はしている様子ですが、乾牧草の生産農家は、理解をしていないか、もしくは理解をしていても気にはせず「高く売れなければ他の作

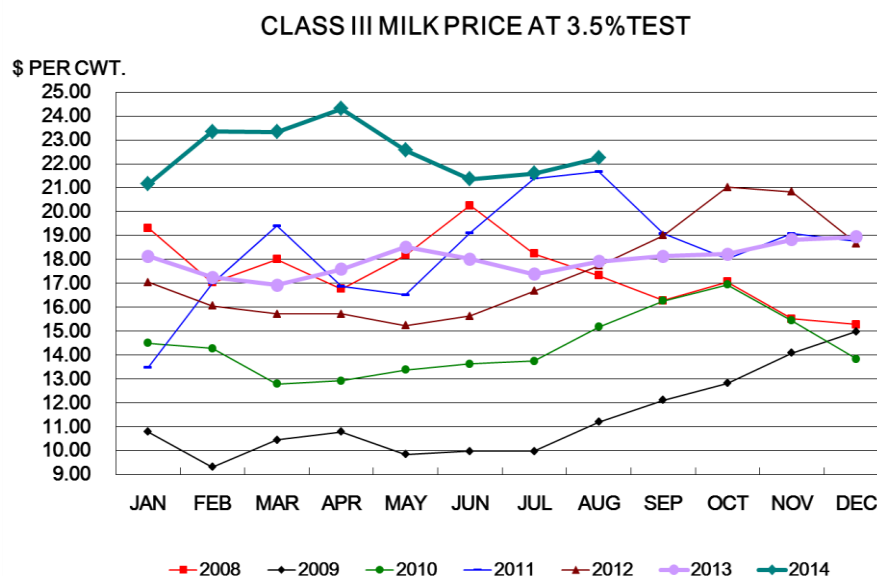
物に切替えるだけ」と考える傾向にもあると、一部では言われています。国内外からの強い需要を受けて、産地では乾牧草も年々、売り手市場化が進んでいる印象を受けます。輸入する側にとっては、外国為替についても、産地動向についても、楽観視できない環境が続くと考えられるため、今後も引続き、買付ける草種やグレードについては注意が必要です。

北米コンテナ船情勢

産地では、6年ごとに更新されている北米西海岸港湾での労使協定が、14年6月末で失効となっています。雇用主PMA（Pacific Marine Association：船会社やターミナル運営者で構成される使用者団体）と、労働組合ILWU（International Longshore and warehouse Union：西海岸各港の港湾労働者で構成される労働組合）が引続き交渉を進めており、争点の一つとされていた医療保険制度改革（通称・オバマケア）については両者間で暫定的に合意した模様ですが、新たな協定の締結には、未だに至っていません。米国経済に与える影響も懸念して、両者の共同声明の通り、7/1以降は協約がない状態でも港湾作業が通常通りに行なわれていますが、予断を許さない状況は続いています。できるだけ早い正式な締結を、祈るばかりです。

また、北米西海岸の各港が7月から閉鎖することを想定して、6月ごろから貨物量が急増したため、現在も港湾での混雑やシャーシの不足が発生している模様です。年末に向けて、船積み遅延が多く発生し、輸入粗飼料のデリバリーが例年混乱する時期も間近に控えているため、今後の動向には注意が必要です。

米国の乳価動向



米国乳価グラフ：クラスⅢ チーズ向け CWT（100ポンド≒45.4kg）当たり \$

乳製品の相場価格が堅調に推移していることを背景に、米国の乳価（上記グラフ参照）は、100ポンドあたり\$24を超えた14年4月よりは軟化しているものの、未だに高い水準で推移しています。損益分岐点は\$17とも言われており、トウモロコシの相場価格が軟化している中で、酪農家は引続きアルファルファを積極的に買える環境にあると言えます。既に14年産アルファルファの産地価格にも大きな影響を与えていますが、今後も米国の酪農情勢・乳価動向については注意が必要です。

中東・中国向けアルファルファ需要動向

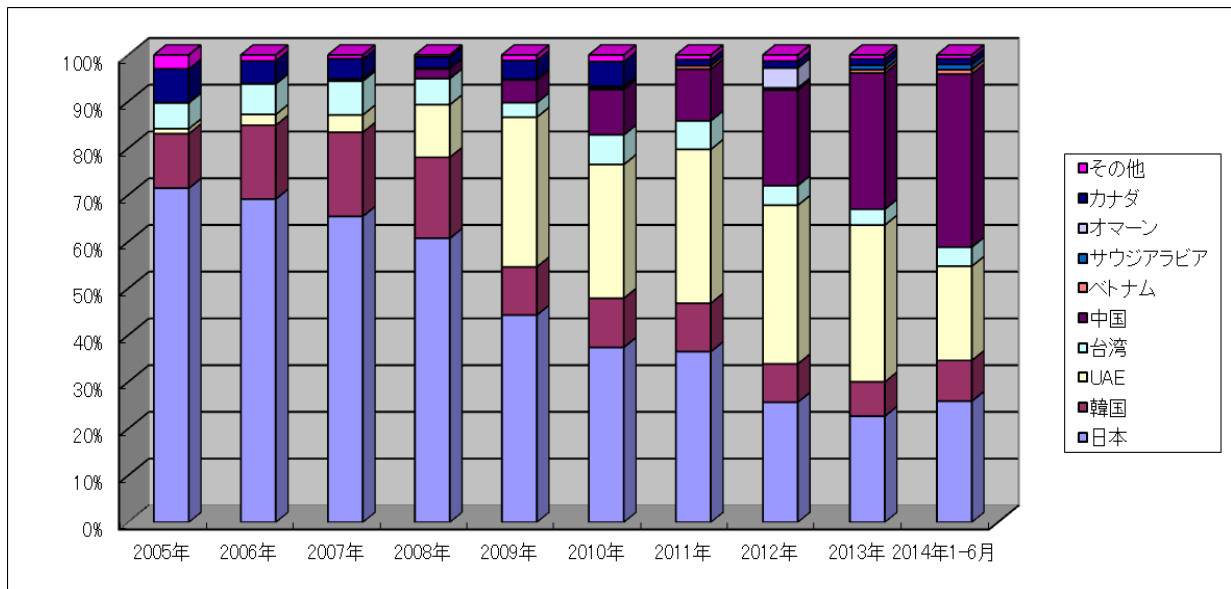
09-10年からUAE向けと中国向けの米国産アルファルファが、驚異的に数量を伸ばして輸出され始めました。3年前の11年は、かろうじて日本が米国産アルファルファの輸出数量トップをキープしましたが、一昨年12年はUAEに抜かれ、昨年13年はついに中国に抜かれて第3位となりました。

14年産については、高騰している産地価格の影響もあり、UAE向けは、あまり積まれず、スペインや南アフリカ、エジプト、パキスタンなどから輸入をしているとも伝えられていますが、中国向けは、1-6月時点では今年も昨年を上回るペースで積まれています。日本向けが再び輸出数量の第2位となっていますが、産地価格が少しでも軟化すれば、すぐに増えるだけの需要が十分にあるため、今後もUAEや中国向けの動向には、注意が必要です。

米国産アルファルファ年間輸出数量（MT）米国農務省海外農務局資料より 2014年は1-6月

	2005年	シェア%	2006年	シェア%	2007年	シェア%	2008年	シェア%	2009年	シェア%
日本	614,367	71.5	559,523	69.2	490,106	65.5	558,538	60.8	686,148	44.4
韓国	100,161	11.7	127,832	15.8	134,489	18.0	159,235	17.3	159,460	10.3
UAE	9,299	1.1	18,621	2.3	27,946	3.7	103,419	11.3	495,432	32.0
台湾	47,308	5.5	52,633	6.5	54,227	7.2	51,248	5.6	47,918	3.1
中国	251	0.0	420	0.1	2,321	0.3	19,348	2.1	74,985	4.8
ベトナム	452	0.1	135	0.0	1,117	0.1	1,248	0.1	1,817	0.1
サウジアラビア							130		1,329	0.1
オマーン										
カナダ	61,745	7.2	39,265	4.9	32,183	4.3	21,575	2.3	61,978	4.0
その他	25,637	3.0	10,338	1.3	6,116	0.8	4,142	0.5	17,820	1.2
合計	859,220		808,767		748,505		918,883		1,546,887	

	2010年	シェア%	2011年	シェア%	2012年	シェア%	2013年	シェア%	2014年1-6月	シェア%
日本	540,365	37.4	585,186	36.5	452,056	25.7	448,391	22.7	223,091	25.9
韓国	151,613	10.5	166,125	10.4	144,352	8.2	144,989	7.3	74,974	8.7
UAE	412,901	28.6	527,456	32.9	596,715	33.9	662,552	33.6	173,363	20.2
台湾	91,472	6.3	97,904	6.1	74,265	4.2	66,542	3.4	35,064	4.1
中国	140,362	9.7	177,374	11.1	359,145	20.4	575,282	29.1	318,570	37.0
ベトナム	5,738	0.4	10,982	0.7	6,162	0.4	14,262	0.7	8,097	0.9
サウジアラビア	3,324	0.2	111	0.0	2,430	0.1	18,854	1.0	9,626	1.1
オマーン					74,513	4.2	26	0.0		
カナダ	76,664	5.3	21,165	1.3	26,488	1.5	26,513	1.3	10,275	1.2
その他	20,596	1.4	16,098	1.0	22,519	1.3	16,666	0.8	7,134	0.8
合計	1,443,035		1,602,401		1,758,645		1,974,077		860,194	



ビートパルプ

<米国産>

ビートパルプの輸出向けの主産地であるミネソタ州とノースダコタ州では、春先に冷涼な気候が続いていたため、14年産ビート大根の作付け進捗は、計画より遅く推移したと伝えられています。また、初期の生育期に降雨が続いたため、単収も例年より少なくなると見込まれています。製糖作業は例年通り9月より開始する予定ですが、14年産ビートパルプの生産量は、シーズン開始前の予想よりも下回ることが見込まれています。

<中国産>

13年産ビート大根の作付面積は、前年よりも減少しており、国内向けの需要もさらに増えている模様です。14年産以降も、中国産ビートパルプの輸出は、ほぼゼロで推移するという予想が大勢を占めています。

アルファルファ

<ワシントン産>

主産地のコロンビアベースンでは、概ね3番刈の収穫が終了しています。1番刈の雨当たり被害は10%程度に、2番刈も20%程度に収まっていますが、3番刈では50-60%ほど発生しています。また、湿度も高くなり始めたため、色あせ（ブリーチ）が目立つスタックも多く発生している模様です。産地では現在、4番刈の収穫が進んでいます。

3番刈のハイグレード品の発生が限定的となったことから、2番刈以降も産地価格は堅調に推移しています。一方で、ローグレード品や雨当たり品については、多少の

価格軟化もみられるようですが、国内の肥育農家向けからの引合いもあり、期待されるような下げ幅には至っていないとも伝えられています。

<オレゴン産>

クラマスフォールズでは、2番刈の収穫が終了しています。1番刈の雨当たり被害は5%以下に収まりましたが、2番刈では20-30%程度の雨当たり被害が発生しており、ハイグレード品の発生量は限定的な模様です。産地では現在、3番刈の収穫が進んでいます。

クリスマスバレーでも、2番刈の収穫が終了しています。1番刈で50%の雨当たり被害が発生しましたが、2番刈でも60-70%も発生しており、クラマスフォールズよりも作柄は悪く、深刻な状況となっています。3番刈については、9月上中旬から収穫が始まる見込みです。

<ネバタ産>

1番刈は40-50%程度の雨当たり被害が発生しましたが、2番刈でも50%も発生しています。3タイ原料で雨当たり被害を免れたスタックはわずかで、ノーレイン品のほとんどはBIGベール原料であると伝えられています。産地では現在、3番刈の収穫が進んでおり、一部で雨当たり被害があったと伝えられています。

<ユタ産>

1番刈は雨当たり被害がほぼ無かったと言われていますが、2番刈は一部で雨当たり被害が発生しました。産地では現在、3番刈の収穫が進んでおり、雨当たり被害は今のところ発生していないと伝えられています。

<北カリフォルニア産>

産地では4番刈の収穫が終了し、現在5番刈の収穫が開始しています。湿度が高くなり始めていますが、今年の早魃の影響からか、例年に比べて見た目は良くてきれいなスタックが多いとも伝えられています。

<インペリアルバレー産>

14年産の作付面積について、8/15時点でのエーカーレッジレポートによると、前年対比104%の123,516エーカーとなっています。産地では5番刈の収穫が終了し、一部では6番刈の収穫も始まっていますが、一般的に成分・品質が落ちる「サマーハイ」と呼ばれるアルファルファの発生が中心となっています。

カリフォルニア州内の酪農家からアルファルファの引合いは引続き強く、ハイグレ

ード品を中心に産地価格は依然高値で推移しています。産地インペリアルバレーでは、8/22-23に豪雨も発生したため、ローグレード品や雨当たり品の発生が多く、ハイグレード品のタイト感はさらに続くこととなっています。

チモシー

<米国産>

主産地のコロンビアベースンとエレンズバーグでは、2番刈の収穫が進んでいます。コロンビアベースンの一部の圃場では、3番刈まで進んでいるとも伝えられています。雨当たり被害がほとんどなく、3年ぶりに作柄が良好となった1番刈とは対照的に、2番刈では40-50%程度の雨当たり被害が発生している模様です。

1番刈の産地価格は、13年産に比べて軟化傾向にはありますが、期待されたほどの値下げには至らず、同じく作柄が良かった3年前よりも高値で推移しています。為替円安の状況下で、特に酪農向けには、費用対効果のある価格帯ではなくなっているのが米国産チモシーの現状ですが、14年産についても、引続き他草種への移行も検討する必要があると思われる。

<カナダ産>

レスブリッジ（アルバータ州南部・灌漑地域）では、1番刈の収穫が終了しました。収穫期の天候に恵まれず、14年産でもハイグレード品の発生は限定的で、大半が中間グレード品以下の品質となっています。産地では現在、2番刈の収穫が始まろうとしています。

クレモナ（アルバータ州中央部・非灌漑地域（ドライランド））では、8月上旬から天候が安定せず、収穫が40-50%を終了したところで進捗が停滞している模様です。現在までに収穫されているものでも、ほとんどが中間グレード品以下の品質で、ハイグレード品は極わずかであると伝えられています。レスブリッジよりも作柄は悪く、深刻な状況となっています。

両産地とも米国産と同様に、1番刈の産地価格は13年産に比べて軟化傾向にありますが、作柄が悪いため、徐々に高くなりつつあるのが現状です。品質についても、14年産では米国産より芳しくない傾向にあるため、引続きカナダ産チモシーは他草種への移行も検討する必要があると思われる。

スーダングラス

<インペリアルバレー産>

産地では、デュラム小麦の相場価格が昨年に続き軟調に推移していたことから、小麦の作付面積が減少し、14年産もさらに早播きスーダングラスの作付面積が増えま

した。2回の収穫が可能な早播きが増えていることから、14年産スーダングラス全体の生産量は、昨年よりも増加しているの見込まれています。早播きの1番刈の品質は、茎細のハイグレード品も、中間グレード品も、今年はスタック内で茎サイズのバラつきはあまりなく、揃っている傾向にあり、前半戦は過去3-4年で最高の作柄であるとも言われています。ただし、湿度が高くなり始める時期よりも収穫時期が早かったため、色抜け品・ライトカラー品の発生は少ない傾向となっています。

産地インペリアルバレーでは、8/22-23に豪雨が発生したため、早播きの2番刈や、小麦収穫後に播種する遅播き（アフターウィート）の一部圃場では、雨当たり被害も発生しています。幸いにしてスーダングラスは収穫終盤であったことから、軟化せずに堅調に推移している産地価格に、さらに大きな影響を及ぼすほどの被害とはなっていない模様です。しかしながら、各サプライヤーとも、集荷済みのスタックにもダメージが発生している恐れもあり、今後船積みされるスーダングラスの品質には注意が必要です。



インペリアルバレー 降雨被害状況 8/22撮影

バミューダ

インペリアルバレーでの14年産の作付面積について、8/15時点でのエーカーレッジレポートによると、前年対比93%の47,623エーカーとなっています。例年1番刈は種取り用の圃場が中心で、バミューダハイの生産は2番刈以降が中心となり、14年産では8月上旬から本格的に始まりましたが、8/2-3にかけて、インペリアルバレー全域で降雨があり、さらに8/22-23に豪雨が発生したことから、作柄への影響が懸念されています。

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

インペリアルバレーでの14年産の作付面積について、8/15時点でのエーカーレッジレポートによると、前年対比100%の16,573エーカーとなっています。8/22-23の豪雨は、クレイングラスの生産にも影響を及ぼしています。4番刈

の終盤と5番刈の序盤のうち、20%程度の雨当たり被害が発生している模様です。

産地価格について、韓国向け、日本向けともに引合いが強くなっているため、軟化せずに引続き堅調に推移していると伝えられています。それでも、クレイングラスは禾本科牧草の中では相対的に割安感があるため、チモシーやスーダングラスから切り替えて使用することも有益であると思われます。高騰するバミューダハイからの切替えが目的で、クレイングラスの引合いが増えているとも伝えられています。

ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

14年産の米国産（主にオレゴン産）ストロー類について、トールフェスク、ペレニアルライグラスともに、既に収穫が終了していますが、どちらも深刻な雨当たり被害が発生しています。トールフェスクは70%程度、ペレニアルライグラスは50%程度の雨当たり被害が発生している模様です。

バミューダストローや豪州産ウィートストローの輸入価格が、比較的軟調に推移しているとも伝えられています。米国産ストロー類の産地価格については、14年産での供給余力の問題もあるため、今後はどのように推移するか、予想が難しい状況となっています。

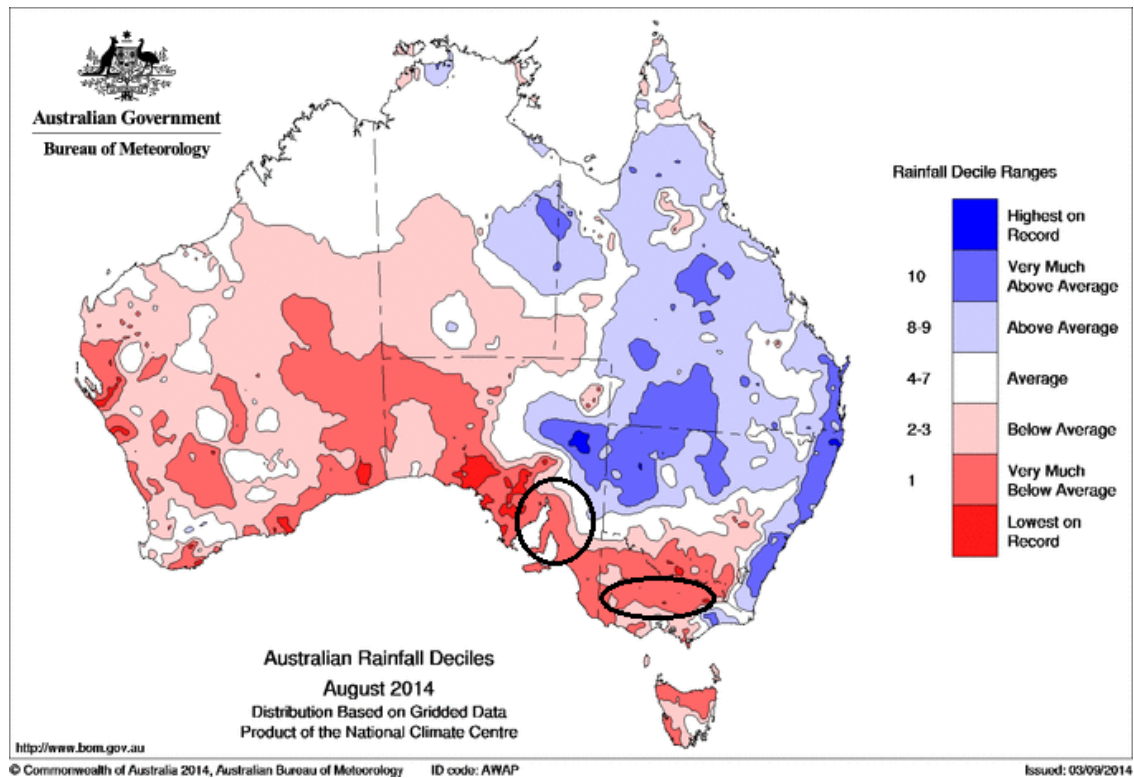
豪州産オーツハイ

13年産オーツハイは、雨当たり被害が発生していますが、大半が軽い雨で済んでいることもあり、ハイグレード品の発生は限定的ながら、見た目がきれいな中間グレード品やローグレード品が多く発生しています。産地価格については、発生が限定的なハイグレード品は強含みで推移しているものの、中間グレード品からローグレード品については弱含みで推移しています。そのため、日本向けも韓国向けも、さらには中国向けも、荷動きが順調であると言われていています。特に中国向けは飛躍的に輸出量を伸ばしており、4月に続いて6-7月にも10,000mt/月を超える結果となっています。13年産オーツハイの輸出向けの生産量は、例年の600,000mtに対して900,000mtもあると予想されていたため、中間グレード品を中心に15年への繰越在庫が多数発生するとシーズン当初は見込まれていましたが、思っていたほどの余剰感はなくなりつつあるのが現状で、今後の動向には注意が必要です。

産地では、14年産の生育が進んでいます。西豪州、南豪州、東豪州（ヴィクトリア州）の、どの産地でも4-5月に降雨があり、土壌水分は大きな問題がないと言われていましたが、8月は降雨量が例年よりも少ない結果となりました。特に南豪州と東豪州（ヴィクトリア州）では、同月の降雨量が例年の20%程度と少なかったことから、単収も例年より少なくなることが予想されています。また、南豪州では8月（冬）に夜間気温の低い日が続いたため、作付面積の20%程度の圃場で霜害が発生してい

るとも伝えられています。

西豪州や南豪州の早い圃場では、9月上旬から14年産オーツヘイの収穫が始まる見込みです。今後の収穫時期の天候が、産地でも注目されています。



豪州 2014年8月の降雨量を平年の降雨量と比較した図

(南豪州、東豪州(ヴィクトリア州)の主産地では、平均よりとても少なく、薄い赤で染められている。)

以 上